ゼロ災運動 KYTトレーナー研修会

危険予知活用技法を習得

中央労働災害防止協会九州安全衛生サービスセンターと県労働基準協会共催によるゼロ災運動KYTトレーナー研修会（基礎2日間コース）が19日、鹿児島市のマリンパレスかごしまで開かれ、製造関係の生産ライン管理者や建設現場監督者、安全衛生担当者らが危険予知訓練活用技法等の基礎や基本動作を習得した。

同研修は、労働災害のない明るく活力に満ちたいきいきとした職場づくりのために、職場で中心となってゼロ災運動を推進するKYT（危険予知訓練）トレーナーを養成するもので、当日は約70社から120人が参加。

参加者らはオリエンテーション後にチーム編成を行い、チームごとに指差し呼称演練やKYT基礎4ラウンド法、ワンポイントKYTの進め方などの危険予知訓練活用技法を役割演技などによって学習。最初は恥ずかしがったり、ぎこちない演技をしていた参加者らも、次第に真剣な表情に変わり、一つ一つの実技を真剣に演じながら動作を体に覚えこませていた。

なお、研修会は20日も行われ、参加者らは適切指示即時KYTの進め方や自問自答カード1人KYTの進め方、問題解決に多く、延べ1700～1800人ほどの人々が修了証を手にした。こユラムを修了した人には修了証が交付される。

県労働基準協会の冨田洵事務局長は「昭和63年から実施しているが、鹿児島での参加は毎回非常に多く、延べ1700～1800人ほどの人々が修了証を手にした。こユラムを修了した人には修了証が交付される。

ノミを扱い、プランターづくりに挑む選手＝鹿児島市の鹿児島工業高校で

チームごとに危険予知訓練活用技法等を習得した研修会＝鹿児島市のマリンパレスかごしまで

高校生ものづくり コンテスト県大会

技術立国担い手育成へ

15年度高校生ものづくりコンテスト県大会は19日、鹿児島市の鹿児島工業高校で開き、県内工業系高校13校から54人が出場、木材加工、電気工事など7部門で県代表を目指して日頃の成果を発揮した。

高校生のものづくりへの興味・関心を高め、技能・技術の向上を図り、将来の工業界を担う有能な人材を育成しようと開催された同大会は、今年で2回目。九州、全国大会予選も兼ねている。

開会式では、県高等学校長協会工業部会長の今村忠鹿児島工業高校長が挨拶した後、旋盤作業出場の満留大典さんが選手を代表して力強く宣誓。選手らは各会場に分かれ、150分の制限時間内で競技に入った。

このうち、木材加工の部には10人が出場。支給されたスギ板で縦約23㌢、横約45㌢のプランターを手工具を使って製作するもの。選手は、ノコ、ノミ、キリを使い、さしがねで寸法を測りながら丁寧にクギを打って課題を仕上げていた。また、橋梁模型製作の部にも女性1人を含む4人が挑戦していた。

7部門の優勝者は、7月22、23日に福岡、長崎県で開催される九州大会に本県代表として出場する。

関連部門の入賞者は次の通り。

【木材加工】優勝＝前堂利沙（隼人工業2年）▽2位＝肥後祐生（鹿児島工業3年）▽3位＝福永真二（薩南工業3年）

【電気工事】優勝＝小牟田真聡（鹿児島工業3年）▽2位＝宮成雄人（出水工業3年）▽3位＝川畑大亮（頴娃高3年）

【橋梁模型製作】優勝＝柊田幸助（鹿児島工3年）▽2位＝津留陽平（薩南工1年）▽3位＝園田はるか（栗野工1年）

新工場建設で立地協定

1期で378㎡、2期に600㎡

タカラバイオ

タカラバイオ㈱（加藤郁之進社長）が曽於郡大崎町に新工場を建設することになり19日、鹿児島市の県庁で立地協定を締結した。9月からの創業を予定し「明日葉大崎工場」の建設を進め、鹿児島産の明日葉（アシタバ）を日本市場に展開するため、処理加工し商品化する。取り扱い量も初年度は250㌧、5年後には2500㌧に増やす計画と説明した。

工場は同町仮宿6955番地4、3196平方㍍の敷地に建設する。建物面積は378平方㍍（第1期）、600平方㍍（第2期予定）。

従業員は第1期（11人）で健康野菜用明日葉及びジュース用明日葉の加工、第2期予定で15人を見込み、粉末ジュース用明日葉の加工及び明日葉関連健康食品の製造を予定しており、初年度は約7000万円を生産する。

明日葉は伊豆諸島を中心とした太平洋岸に自生する日本固有の植物で八丈島では不老長寿の霊薬として用いられている。神経細胞の誕生を促す作用、神経細胞の生存を維持する作用、脳の損傷時に修復する作用、脳神経の機能を回復し脳の老化を防止するなど、神経細胞の生と死に密接に関わるたんぱく質でアルツハイマー型痴呆症や糖尿病合併症などの予防・治療に有効であると考えられている。

ガッチリと握手する関係者＝鹿児島市の県庁で

南日本CADシステム

創業20周年記念展示会

カラーパース作成など体験

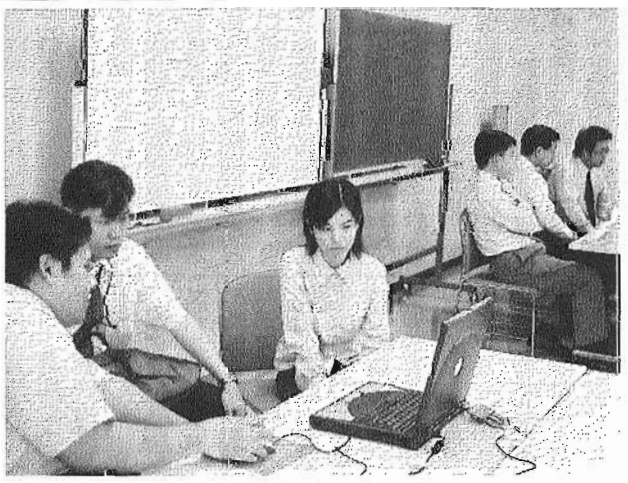
南日本CADシステム㈲（末永進社長、本社・都城市）は19日、鹿児島市の県文化センターで「創業20周年記念展示会」を開き、設計・住宅関連会社の営業・CAD担当者ら20人が参加して、簡単操作でリアルなカラーパースや平面図を作成するなど体験した。

今回は、㈱シーピーユーが開発したプレゼン全国シェアナンバーワンのCADソフト「MADRIC・CG2000」のデモをはじめ、新商品の高機能・高画質の自由自在ウオークスルーを搭載した「PYTHA」や今までになかった画期的なモデリングソフトなどを多数展示した。

当日は、㈱シーピーユーの担当者が実際にパソコン上でカラーパースや平面図、見積書の作成などの操作方法や活用法を詳しく解説。参加者は、ユーザーのニーズに応えた高性能なソフトとあって熱心に担当者の説明を聴いていた。

実際に説明を受けた設計事務所の担当者は「簡単操作でリアルなカラーパース作成から実施設計や詳細積算まで行えるのがとても良いと感じた。現在、使用しているソフトと比較しても、手間がかからない」と驚きの表情を見せていた。

末永社長は「今までとやっていても今後は生き残れない。MADRIC・CG2000は、従来のCADとは比べものにならないほど、高性能なCADとなっており、今までにない新しい住宅の提案としてお役に立つと思いますので、活用して他社との差別化を図っていただければ」と語った。



担当者の説明に聴き入る参加者＝鹿児島市の県文化センターで

テレビで沖縄の子供たちと話す小中学生＝名瀬市のAIAI広場で

奄美ITアイランドフェア

名瀬市 テレビ会議

沖縄の児童らと交流

名瀬市のAIAI広場で15日、「奄美ITアイランドフェア2003」があり、会場は小中学生や多くの家族連れでにぎわった。

同イベントは名瀬市が市民にパソコンやITを分かりやすく楽しく体験してもらおうと開いたもので、会場ではITに関する講演会や沖縄の小中学生とのテレビ会議、各企業によるITビジネスフェアブース紹介などさまざまなコーナーが設けられ、訪れた市民らは思い思いの場所でITに触れ合い有意義な一日を過ごした。

そのうち奄美と沖縄の家族同士が交流を行ったテレビ会議では、小中学生がテレビに映った相手とお互いの故郷の自慢話や質問、クラブ活動、今夢中になっていることなどを積極的に話し合ったりした。また各企業がブース紹介を行うコーナーでは家族らがデジカメで撮った写真にパソコンを使ってペンで簡単にメッセージを入れる操作方法を教わったり、各種ゲームを楽しんだりした。このほか会場内には高校生のCG作品も展示され、見学者らは高校生とは思えないその力作に目を奪われていた。